

JET からの手紙

レジデンス・イン・オキナワ ～南国の交流員より～

沖縄県交流推進課 国際交流員
李 永根 (イ・ヨングン)

はじめに

「沖縄で暮らせるなんて羨ましいよ」と、赴任してから1年がたった今でもよく言われます。3年前、旅行に来た時から思ったことですが、沖縄県は固有の文化・環境から漂う独特なテイストが非常に魅力的な地域です。特に自然が圧巻で、沖縄に来たばかりの時には



きれいな空

写真を撮ることが趣味になったくらいです。

観光地としてよく知られている分、詳しい方も多いため、観光地としての沖縄は少し控えめにしておきますが、住民としての沖縄は観光地としての沖縄とは一味違い、新しい一面を発見する日々です。暑いというよりも



私の手作りシーサー

熱くて痛い日差しや気まぐれに降ってくる雨、その雨を地面と平行にさせる強い風。どれも非常に沖縄っぽいと思うところで、出かける時には必ず傘を持っていたようになりますが、物忘れが多い私は、2か月に1本くらいのペースで傘をなくしています。

沖縄県交流推進課

そんな沖縄県の人気観光地、国際通り入口の交差点が

らは、まるで砦のような巨大な建物が見えます。身なりは大きいものの外観や色合いは素朴で、あまり目立ちませんが、ここが私たちの職場、沖縄県庁です。県庁5階の交流推進課には現在ペルー・韓国・カナダの国際交流員 (CIR) 3人が在籍しています。

沖縄県交流推進課がもっとも力を入れているのは「ウチナーンチュ」関係の事業です。戦後、出稼ぎなどの理由で海外へ移り住んだ人が多いことから移民県とも呼ばれる沖縄ですが、移住先の社会に溶け込みながらも、自分のルーツである沖縄への思いを忘れない人たちが多くいます。沖縄県は、そのような人たちのことを「ウチナーンチュ」(沖縄方言で“沖縄の人”)と呼び、世界各地のウチナーンチュとのつながりを拡大・発展させるための多様な事業を実施しています。そこで、ペルー CIRの早川アンドレアさん、カナダ CIRのカストングエ・シーナさんが活躍しています。最近では10月開催予定の「第7回世界のウチナーンチュ大会」の準備に向け、それぞれスペイン語・英語の翻訳、通訳などの対応で、忙しい日々を送っています。

私は、韓国のCIRが不在だった間中止となっていた「ランチタイム韓国語教室」を再開させました。2年間の空白があったのにも関わらず、過去の授業を覚えてくれた方や、韓国文化や韓国語に興味を持っている方が大勢いらっしゃることに感激しました。数年前までは、韓国に興味を持っている人が多くはなかったため、なんだか不思議な気分です。非常にやりがいを感じ、韓国語教育にも興味がわいたため、「ランチタイム韓国語教室」をきっかけに韓国語教員資格の勉強をするようにもなりました。

新型コロナウイルス感染症により行き来や集まりが自

由でなくなったことで、出前授業など、CIRとしてできる活動も激減しているところですが、だからといってじっとしてはいらなかったため、CIRが作る情報誌「CIRのくい〜(声)」をCIRの皆で企画し、月1回発信しています。いつ、どこで読んでも面白いと思ってもらえるスナックカルチャーのような記事を目指し、毎月頑張っって作成しています。



2021年ウチナーンチュの日に

国際交流員らしいこと

交流における過疎というの存在するのではないかと思います。高校時代の私は、日本の文化に興味を持っていたことから、選択科目で日本語を選び頑張っって日本語の資格まで取ったのですが、高校を卒業するまで日本語での会話など、こういった交流の機会は一度もありませんでした。たまたま興味を持ったのが日本だったのですが、それがほかの国だったとしてもおそらく大して変わるとは思えない、そういう環境で私は育ちました。

私がJETプログラムに参加するようになったきっかけ



出前授業の様子

は、高校時代の私と同じ環境に置かれているかも知れない人たちに、「交流の機会」になってあげたかったからです。当時の私は都会に住んでいたため、探してみたらどこには交流の機会があったのかも知りませんが、あの時の私は

待つ交流よりは、出かける交流があっって欲しかったです。私が出前授業のような出かける交流を頑張る理由はこのためです。

沖縄県全体において、韓国人は約1,000人程度が在住しているようで、パーセンテージにすると県人口の0.07%程度に当ります。ペルー人は0.0175% (約250人)、カナダ人は0.007% (約130人) で、私たちは幻のポケモンのような存在ですが、出前授業で出会う生徒たちの中には、そんな私たちに韓国語やスペイン語、英語で声をかけて来る子がしばしばいます。片言の時もありますが、きちんと勉強していることがわかる人も少なくありません。

CIRをしている間には、CIRにしかできない、CIRらしいことをしようと心がけています。おそらくですが、全国のJETプログラム参加者の皆様も同じ気持ちではないでしょうか。少し長々しくなりましたが、韓国語で声をかけられた時に韓国語で返し、それにより、これからも世界各国の文化や交流に興味を持ち続けられるきっかけになることが、私がやっていきたい「交流員らしいこと」だと、交流推進課の隅っこの席で、そう思いました。



沖縄県交流推進課

プロフィール



李 永根 (イ・ヨンゴン)

大韓民国、ソウル特別市出身。2020年12月から沖縄県に着任。日本語通訳・翻訳を専攻し、千葉で1年間交換留学。ソウル市観光協会「動く観光案内所」で1年間在職。最近の趣味はサイクリング。